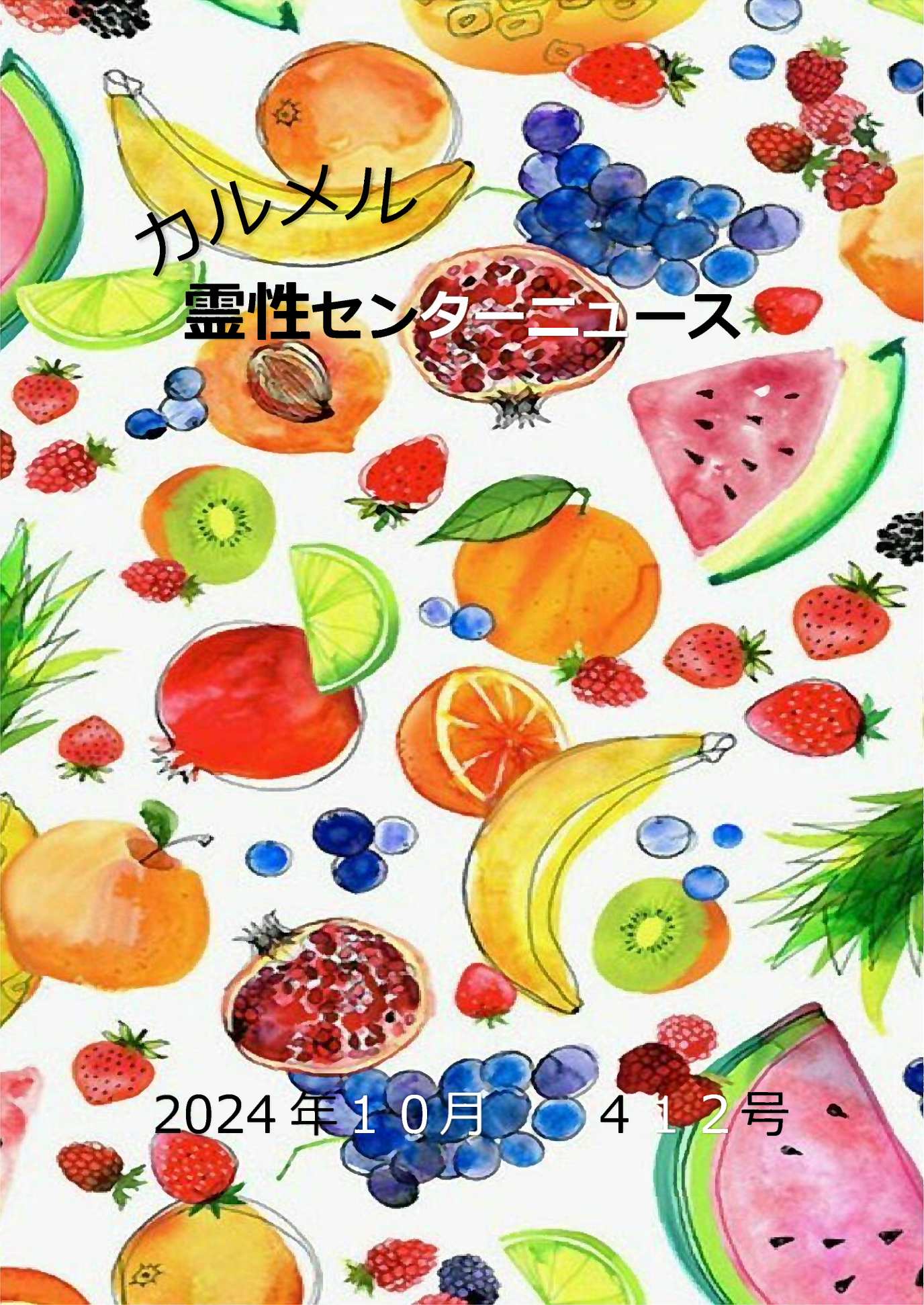




カルメル 靈性センターニュース

2024年10月 412号

目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	20
東京	21
京都	23
名古屋	28
通信深読お申込みのご案内	29
諸所の企画案内	30
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	34

心の泉



宇治カルメル会修道院



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第二章 聖体の秘跡において、神のいつくしみと愛とが 人にあらわされる

4 愛と知恵

ああ、神の愛の泉において、なんとあなたの寛容さが輝きわたることでしょう！そのあなたをどのようにたたえ、感謝したらよいのでしょうか！私の神よ、この秘跡を定めたのは、まことの救いのために益のあることでした！ご自身を糧として与えてくださるこの宴は、なんと甘く喜ばしいことでしょう！主よ、あなたのみ業はほんとうにすばらしく、あなたの力はいかに強く、あなたの真理はいかに深いことか！「あなたが命じれば、すべてがおこなわれ」(詩編 148・5)、すべては命令通りになります！

5 力といつくしみ

神なる主よ、まことの神、まことの人であるあなたが、パンとぶどう酒との小さい形態のもとにおいてになり、あなたを拝領しても尽きることがないとは、これこそ不思議な驚くべきこと、信すべきこと、人の悟り得ないことです。私たちと共に住むように望まれ、「誰をも必要とされない宇宙の主よ」(ニマカバイ 14・35)、私の心と体を清めてください。私が汚れなく澄みきった心で、あなたの永遠の栄光の記念として制定された秘跡を遂行し、自分の永遠の救いのためにそれを受けられるようにしてください。

6 新しい受肉

ああ、私の魂よ、おまえの受けるこの尊い賜物、特別な慰めを、涙の谷にのこして下さった神に感謝しなさい。おまえがこの奥義をくり返し、キリストのおんからだを拝領するたびに、おまえは自分の救いの業をおこない、キリストの徳にあずかるのです。実にキリストの愛は減ることがなく、無限のあがないは尽きることがありません。つねに心を新たにし、この秘跡を受ける準備をするべきであり、この救いの神秘を注意深く黙想しなければなりません。ミサを捧げ、ミサにあずかるたびに、ちょうどこの日、キリストが初めておとめの胎内に降^{くだ}って人間となられ、十字架にかけられ、人間を救うために苦しまれたのだと考え、この神秘の偉大さ、新しさ、喜びを思い直さなければなりません。》

二〇二五年へ向けて

聖年・テレーズ列聖百周年

2024-10



二〇二五年聖なる扉が開かれるまで、神の希望の力をよりよく体験できるよう準備するために祈りを強めて「祈りの偉大な価値と、個人生活・教会・世界における祈りの絶対的必要を再発見することに捧げた一年であるように。」(教皇フランシスコ)

1日:幼きイエスの聖テレーズ(教会博士)

うまずたゆまず 祈りましょう
信頼は 奇跡をもたらします テレーズ



試練、悲しみ、喜びのうちにあっても、
常に神へと信仰のまなざしを向けることです。——神の慈しみの愛に信頼して。*1

15日:アヴィラの聖テレサ(教会博士)

何ことも心を乱すことなく 何ごとも恐れることはない
すべては過ぎ去っていく 神のみ変わることがない テレサ

思いがけない出来事、他人の反応や批判、自分の過ち、失敗などに、心は振り子のように揺れ動きます。しかしどんなに心を乱されても、深奥にまします神へと向かおうとするなら、「何も恐れることはない」とテレサは言います。



*2

目を上げて わたしは山々を仰ぐ わたしの助けはどこから来るのか
天地を造られた 主のもとから

詩編 121



主があなたを助けて、足がよろめかないようにしていただきますように。
天地を造られた主は、まどろむこともなく、寝ることもありません。
わたしの助けは、そのお方から、その方はすべての災いから、
わたしを守ってくださいます。*3

神の慈しみに 常に希望をおく日々でありますように...

伊従 信子(いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

*1~3:『祈りの道 写真/文伊従信子』サンパウロ出版社

フランシスコ教皇の言葉 ⑥*

喜びがなければ、
信仰は重苦しくて退屈なものになってしまいます。

聖人とは、希望を忘れない人、
いつも喜んでいる人のことなのです。

喜びのない信仰とは、本当の信仰とは言えないのではないのでしょうか。もちろん、日々の生活では苦しいことや悲しいことが次から次へと起こるので、いつもニタニタ笑っているわけにはいきません。

仏教は苦からの解脱を説きましたが、キリスト教においては信仰の世界に入ることではないかと思われます。その時、私たちは、この世の四苦八苦を超え出ると同時に、この世を超える喜びと平和に満たされるのです。

それは、苦しみや悲しみがなくなることではありません。苦しみや悲しみのただ中にあっても、いつも喜びがあるということです。この喜びを、リジューの聖テレジアや三位一体のエリザベトなど、カルメルの聖人たちは証ししています。

パウロは言っています。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです」(1テサ5・16-18)。

(P. 九里)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（194）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

書簡から（2）

彼のいくつかの手紙にざっと目を通しますと、ヨハネ修士がまずどのような人間として立ち現われて来るかが見えてきます。つまり、失意の中にあり、アンダルシアに追放されたと感じている人間ヨハネです。けれども同時に、聖人として反応しようと努めているヨハネ修士も見出すのです。「神はよくなされた。結局のところ、寄る辺のない今の状態はやすりであり、闇を忍ぶことは大いなる光のためなのだ」。そして手紙が短いことの言い訳を探すことなく、まったく率直に次のように手紙を結ぶほど、ヨハネは人間的だったのです。「気が進まないゆえに、こちらのことについてはもう何も言いたくないのです」。

1586年6月の長い手紙は、すこし別格です。さまざまな活動に追われ、修道院の創立ために今やますます迅速さが求められている中で、「ああ、私が、これらの修道院の創立のために持っているのと同じような職権を、（カラバカの男子修道院）創立のためにも持っていたならば。そうであれば、こんなにあちこち放浪しなくても済んだでしょうに」。

この同じ手紙の中には、経済に明るいヨハネ修士の姿が見えます。セビリャの女子カルメル会の新しい修道院の購入においては、もみ手する人のような印象を受けます。こう書いています。「……いくつかのすばらしい家は、ほぼ1万4千ドゥカードでしたが、2万ドゥカード以上の価値があります」。

この同じ手紙の中には、カラバカのイエズス会神父たちに関するとてもない評価も含まれています。彼らは約束を守る人々だとは見られていません。彼らについて少し度を越した大げさな表現が続いています。冗談を言っているわけではありません。

いくら神に聖別奉献されようとも、人は無神経であってはならないことを理解するため、人間性と聖性にとって、仕事なしにとどまるとか、他の修道院や他の場所へ移動するとか、何らかの出来事が起こる必要があるのです。

（P. 九里訳）

年間 第27主日

(マルコ10：2－12)

今日語られるみことばは、ファリサイ派の人々がイエスに近づいて、イエスに尋ねて試そうとした離婚の問題についての話です。「夫が妻を離縁することは、律法に適っているでしょうか」と彼らはイエスに尋ねます。

「律法に適っているか」彼らは神の掟を忠実に守るために、努力を重ねてきました。神のみ前で正しく生きようと一生懸命だったといえるでしょう。これまでのユダヤ人の歩みの中で、大切な掟を守るために、ユダヤ人はさらに細かな規則を作り出し、それを守らなければならないこととして掟え、守ってきました。

しかしながら細かなことに目を向け、きゅうきゅうとしている中、大切な神の思い、掟の精神から気づかぬうちに離れてしまったようです。神の思い、掟の精神ではなく、人が作り出した細かな事柄に従っているか、守っているかということが彼らの関心事になっていたようです。

ファリサイ派の人々からの問いかけに対して、イエスは質問を投げかけ問い返します。「モーセはあなたたちに何と命じたか」と。そして彼らはイエスに「モーセは離縁状を書いて離縁することを許しましたと」答えます。イエスが答えに窮すると思ったに違いありません。

その様な状況の中で、イエスは律法、また掟の方に目を向けるのではなく、神の思いは何であるかという、一番大切な神の意思に目を向ける様にされました。「あなたたちの心が頑固なので、このような掟をモーセは書いたのだ。」と言われ、また神が人を男と女とにお造りになられ、人は父母を離れて妻と結ばれて、二人は一体となり、この2人は神が結び合わせて下さったものであるから、人は離してはいけません。

このように神の思いから離れ、いつの間にか歩んだ人間の有様が語られていますが、ふと気づくと、私たちも神の思いから離れてしまっているということはないでしょうか。自分の思いではなく、神の思いは何であるのか。自分の思いを行うわたしたちではなく、神の思いを大切にしながら、その中で歩んでゆくわたしたちでありたいと思います。

(Fr. 古川利雅)

年間 第28主日 (B)

(マルコ 10 : 17 - 30)

「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいのでしょうか？」

永遠の命を得るには何をすべきでしょうか？ どうしたらの國に到着するのでしょうか？ 金持ちであることはどうでしょうか？ このようなことは、人がたびたび尋ね続ける永遠の質問です。本日の福音はこれらの質問にたいしていくつかの答えを与えています。本日の福音の金持ちの人は、すべての掟を熱心に守っていましたが、イエス様が「行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。」という更なる犠牲を求められたとき、それはできないと思いました。金持ちの人にはそれは多すぎて大変すぎたので、失望して立ち去りました

「金持ちの人が天の王国に入るのはどれほど難しいでしょうか」というイエス様の言葉は明確ですが、理解し難く、さらに行動にうつすのは困難です。どれほどの人がイエス様の言葉を生きることが出来るのでしょうか？ 私たちでさえ、イエス様の言葉はむずかしい、誰がこれに耳をかたむけるのでしょうか？ イエス様はこのことを「**金持ちの人が神の王国に入るより駱駝が針の目を通る方が容易だ**」と言って示されました。これは、弟子たちを更に驚かせ、「それでは誰が救われるのですか」とたずねました。「人間が出来ないことを神はお出来になる」とイエス様は答えられました。何をすべきでしょうか？ 金持ちの人は、自分の財産に執着しないで、しゅの資産にいれるべきです。財産はしばしば主への道への妨げとなり、障害となります。

本日の福音は、物惜しみなない分かち合いに、私たちを招いています。私たちは皆、イエス様はご自分自身を与えたほど物惜しみのないことを知っていますし、信じています。全てのキリスト者の心の中に与えることへの希望があるべきです。神は私たちにすべての財産を捨てるように求めているのではありません、それを神の奉仕のために賢く使うように求めておられるのです。私たちの財産、所有物、金銭、才能が、私たちの心を支配すべきではないのです。他者の奉仕のために使うように、神は様々な祝福と恵みを私たちにご与えてくださっています。

私たちは皆、自分の生活の中で幸福や平和の妨げとなる大きな障害となるものを持っています。それは、怒り、恨み、飲酒、麻薬、不信仰、怠惰、噂やゴシップを広めることなどです。私たちの生活の中にキリストを招き入れ、これらの障害を取り除き、聖なるものに育てていきましょう。

(Sr. Pauline)

年間 第29主日（B年）

（マルコ 10：35－45）

イエスが三度ご自身の死と復活を予告してエルサレムへ向かう途上、ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出てイエスに、「栄光をお受けになるとき、私どもの一人を先生の右に、一人を左に座らせてください」と申し出ました。三度のイエスの受難予告は一行に緊迫感を与えていたことでしょう。ヤコブとヨハネ、また他の弟子たちも同様だと思いますが、これら自分たちが経験するであろう苦難に見合うだけの報いを保証してほしいと申し出ました。

果たして報いを全く無視して従うということがあるのでしょうか。色々な意見があると思いますが、私は、報いなしに信じるということはないと思っています。どんな報いを欲しているかという、報いの次元に違いがあるだけでしょう。

アブラハムの信仰は、歩みと共になされる神からの試練によって信仰が深まっていく過程が描かれています。最初は神に従うことによって与えられる子孫繁栄、土地の獲得の約束と共に従っていました。最後の試しを通して、それら物質的な報いではなく、神ご自身を信じているかどうか試され、神ご自身を信じる信仰へと至りました。神ご自身を信じる信仰とは何でしょうか。神ご自身との関わりこそが報いであるということです。この世的な、物質的な子孫繁栄、土地の祝福に勝る報いが神との関わりの内に見出すことで神ゆえに神を信じる信仰となります。神の内におのちを見いだせるかどうかでしょう。

イエスの弟子たちはまだ、イエスに従うことによって力、権力、繁栄を欲していたでしょう。しかしイエスは、その報いが与えられるかどうかは私の決めることではないと律します。イエスも弟子たちに、私と共に歩むこと、私との関わりに行き、共に苦しみ、喜びを共有することこそあなたたちの報いなのだと弟子たちを諭しているでしょう。

神との関わり、人との真の関わりことがキリスト者の報いです。

（P. 志村）

年間 第30主日 (B)

(マルコ 10 : 46－52)

誰でも健康でありたいと願っています。無病息災で、老いとは無縁な幸せな生活を送りたいという願望を持ちつつ、自分の持ち物、とりわけ健康が奪われることにおびえています。医療や科学技術がどんなに進歩しても、誰でも病気になり、年を取り、死ぬのが現実です。病人や高齢者の姿を眺めると、自分の無力さとさし迫る死を痛感させられます。

今日の福音で登場する盲人のバルティマイは、私たちの無力な姿を映し出しています。バルティマイは自分一人では何もできないことを知っていました。しかしナザレのイエスが来たと聞くと、イエスへの信仰を表し、その信仰によってイエスは癒しの奇跡を行いました。盲人は、自分を助けて視力を与えてくれるのはイエスだけだと確信していたので、群衆や弟子たちからの脅しにひるまずに「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫び続けたのです。バルティマイのこの揺るぎない信仰は報われ、暗闇の世界から解放されました。

では次に私たち自身に目を向けてみましょう。日常生活の中では、たくさんの「呼びかけ」が聞こえてきます。助けてほしい、慰めてほしい、助言がほしい等々です。私たちは今まで何度、何も聞こえなかったかのように立ち去ったり、この呼びかけをやめさせたりしたのでしょうか？「安心しなさい。立ちなさい」と声がけをしたことはあるのでしょうか？イエスは今日、助けを求める人の声に耳を澄まして心を配るようにと招いています。私たちの励ましの言葉、愛情、思いやり、連帯、善意は、現代社会の闇に光をもたらし、絶望を抱える世界に希望を与えるでしょう。

イエスこそ世の光です。主は私たちを照らし、私たちの理性と心に光を注がれます。戦争・災害・死の最中にあって、私たちは信仰のうちにバルティマイと一緒に「ダビデの子イエスよ、憐れんでください」と祈らねばなりません。

(Sr. Paulina)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2024年7月30日

インドネシアの跣足カルメル在世会が全国大会開催



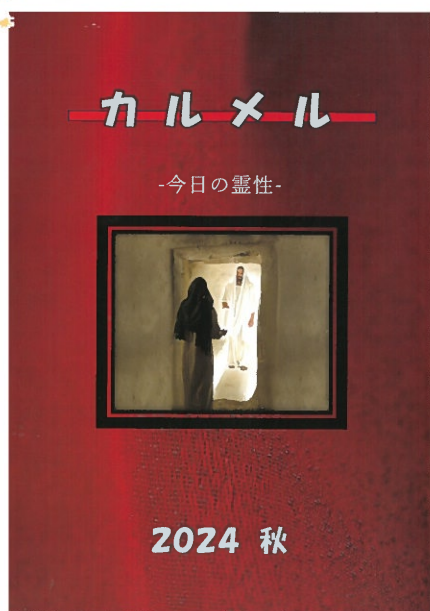
インドネシアの跣足カルメル在世会は、7つの異なる島々に15の共同体があります。その会員達は、教会と世界の中で、祈りの生活、人々との友愛、様々な奉仕活動に日々専念して

います。この全国大会で各地から共同体が共に集い、跣足カルメル在世会の召命の重要な特質について話し合い、自分たちの住む町や市で跣足カルメル会在世会のカリスマをどのように実践し、人々と分かち合っていくかについて討議しました。

そして、会員たちは自分たちの証しにより、これからも多くの人々を引きつけ、跣足カルメル在世会の会員であることにとどまるだけでなく、神との関係において、さらに成長し続けることを確認し合いました。大会中、彼らは聖体お祭儀に預かり、教会の祈り、黙想と霊的読書、霊的なイベントを行いました。この大会では、祈り、学び、討論、リクリエーションの時間がバランスよく組み込まれ、会員たちは実り多いひと時を過ごしました。

(訳・注:小宮山延子)





2024年 秋号 No.394

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(7) 鶴岡賀雄

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性

—創造における神の想い、意図 志村 武

テレーズ列聖百周年に向けて

—レオニー 妹テレーズの「幼子の道」を行く(3) 伊従信子

陶器師の山暮らしの日々から

ラウダート・シ＝神のいのちへの道(3) 椿 権三

風に吹かれて再び(9)—貧しさと豊かさ 原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(11) 九里 彰

霊的研究会講義録(25)—聖書・祈り・愛について 奥村一郎



2024年 四旬節特別号

「わたしたちを愛に導くのは信頼、ただ
信頼だけです」(聖テレーズのメッセージ)

聖テレーズ生誕 150 周年記念 教皇
フランシスコ使徒的勧告「信頼」に導かれて

わたしは愛になりましょう

—愛の道を飛んでいくために 今泉 健

詩「むしられたバラ」より

—テレジアの愛の道 九里 彰

テレーズの信頼の道・小さい道と

ヤコブ・イスラエルにおける小さい道 志村 武

現代の闇を照らす灯火

—テレーズの進行の試練 片山 はるひ

小さな 偉大さ

伊従 信子

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円 (+送料 140円) を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費 (年 5冊: 春夏秋冬+特別号 計 3,600円) を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当: 内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

教友社電話 (1,500円＋税)

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です(教会憲章 53 番)。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神祕をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

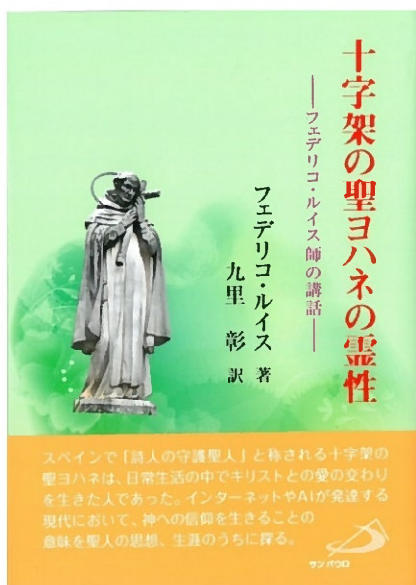
1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

十字架の聖ヨハネ理解のための 待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

——すべての人のための霊性神学——

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じられた。東洋の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 智恵（1）
 - 第2章 智恵（2）
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と（空）
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 愛のうちに（る）
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義

書籍案内



生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】 287

第2版
好評発売中!

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。([はじめに]より)



神と親しく生きる いのりの道

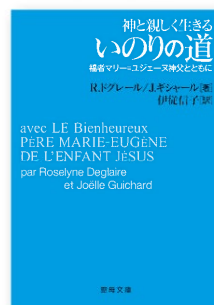
福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャール 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 246

定価540円(税込) 209頁



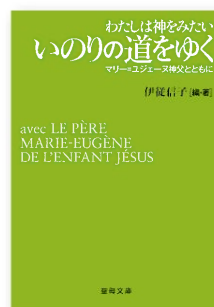
わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

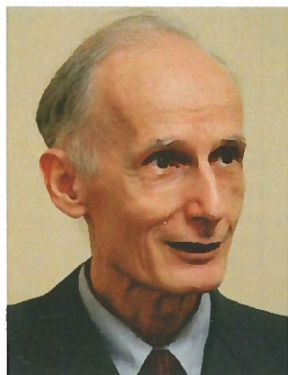
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 268

定価648円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

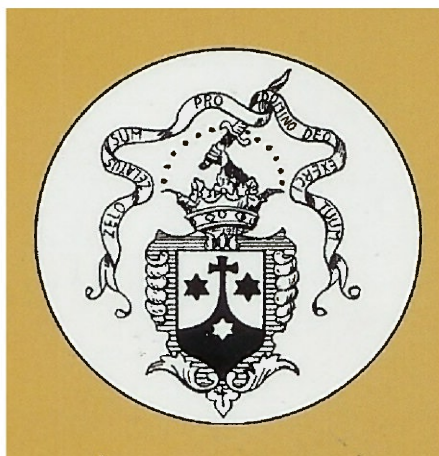
1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院（黙想）**
（2024年4月～）

- ・聖書深読黙想会（土曜日 18時～日曜日 16時） カルメル会士

2024年

4月20日～21日

11月9日～10日

5月25日～26日

2025年

7月27日～28日

1月11日～12日

9月28日～29日

3月15日～16日

- ・奉獻生活者のための黙想会（初日 17時～最終日朝食） カルメル会士

~~2024年8月16日（金）～25日（日）~~ 中止

★教会の祈り（時課の祈り）を軸とした 黙想の場を提供いたします。

12月27日（金）～1月5日（日）

【ご利用に際して】

- ・介助やサポートなしで生活できる方、年齢は80歳までとさせていただきます。
- ・上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内 (2024 年 10 月～2025 年 3 月)

【一般のための黙想】 1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時) 中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

2024 年

11 月 16 日～17 日

2025 年

1 月 18 日～19 日 3 月 1 日～2 日

【聖書深読】 (土曜午前 10 時～午後 4 時) 中川博道神父

2024 年

11 月 30 日

2025 年

1 月 11 日 3 月 15 日

【水曜黙想会】 (午前 10 時～午後 4 時) 中川博道神父

2024 年

10 月 16 日 11 月 20 日

2025 年

1 月 22 日 2 月 19 日 3 月 19 日

【カルメルの霊性】 (午後 5 時～午後 4 時)

幼き聖テレジア 9 月 28 日 (土)～29 日 (日) 松田浩一神父

十字架の聖ヨハネ 12 月 21 日 (土)～22 日 (日) 中川博道神父

【祈りの学校 入門編】 (火曜 午前 10 時～午後 4 時) 松田浩一神父

2024 年

11 月 12 日 12 月 3 日

【祈りの学校 教会の祈り】 (木曜 午前 10 時～午後 4 時) 松田浩一神父

2024 年

10 月 17 日 11 月 14 日 12 月 19 日

【奉献生活者の黙想】 (午後 5 時～午前 9 時)

2024 年

10 月 7 日 (月)～16 日 (水) 中川博道神父 (一般可)

12 月 27 日 (金)～1 月 5 日 (日) 中川博道神父 (一般可)

2025 年

3 月 4 日 (火)～13 日 (木) 中川博道神父 (一般可)

【青年男女のための黙想会】 (35 歳以下) 松田浩一神父
1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可)
2024 年
10 月 19 日～20 日

ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたしますー

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

アビラの聖テレジアの祭日ミサ

と小講話のお誘い

(テーマ：異教の地で神の愛に生きる聖女の霊性)

2024 年 10 月 15 日 (火曜日) 10 時～ミサ・小講話

場所：カルメル会宇治修道院聖堂

司式：松田浩一 神父 (男子跣足カルメル会)



お問合せ：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治修道院

Tel 0774-32-7456 (10時から16時まで)

Fax 0774-32-7457

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「祈りの学校」(2024年度)

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



日時(入門編)：1月30日(火) 2月20日(火)、3月19日(火)、4月9日(火)、5月7日(火)、6月4日(火)、7月2日(火)、9月17日(火)、11月12日(火)、12月3日(火)

***日時(教会の祈り)：**1月11日(木)、2月13日(火)、3月21日(木)、4月18日(木)、5月23日(木)、6月20日(木)、7月11日(木)、9月26日(木)、10月17日(木)、11月14日(木)、12月19日(木)

いずれも、10時から16時まで

場所：宇治聖テレジア修道院(黙想)

指導：松田浩一 神父 (男子カルメル修道会)

持参するもの：ノート、筆記、ロザリオ(*『教会の祈り』)

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒158-0093 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Fax 0774-32-7456

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

教皇フランシスコの著作を学びましょう

日時：① 2024年2月10日（土）PM5時～2月11日（日）PM5時

② 2024年4月20日（土）PM5時～4月21日（日）PM5時

③ 2024年6月15日（土）PM5時～6月16日（日）PM5時

④ 2024年10月19日（土）PM5時～10月20日（日）PM5時



（尚、日曜日 PM4時から京都女子カルメル修道院でミサの予定）

- ① 教皇来日講話集：『すべてのいのちを守るため』
- ② 使徒的勧告 『喜びに喜べ』
- ③ 使徒的勧告 『愛のよろこび』
- ④ 回勅 『ラウダート・シー』と使徒的勧告『ラウダーテ・デウム』

教皇フランシスコは、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対象：35歳までの青年男女

参加費用：下記のEメールか、FAXでご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



旧約聖書から学ぶキリスト教霊性
—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2024年10月19日（14：30～16：30）

ヨブ記から学ぶキリスト教霊性

その後の日程： 11月16日、12月21日

2025年1月18日、2月15日、3月15日

その後のテーマ：列王記の全体構造とメッセージ、

エズラ・ネヘミヤ記の全体構造とメッセージ、など

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2024年10月26日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：九里彰神父

【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顕示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）

以降の日程： 12月14日（志村武神父）



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ 真の幸せへの道
「…あなたがたは喜びで満たされる」
(ヨハネ16.24)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)
予約は前日の16:00まで

- 1月11日 「イエスは…群衆を見て、山に登られた」(ソットコルノラ・フランコ神父)
2月 8日 「神よ…あなたのほかに しあわせはない」(ソットコルノラ・フランコ神父)
3月14日 心の貧しい人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
4月11日 悲しむ人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
5月 9日 柔和な人々は、幸いである(Sr. マリア・デ・ジョルジ)
6月13日 義に飢え渴く人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
7月11日 憐れみ深い人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
8月 休み
9月12日 心の清い人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
10月10日 平和を実現する人々は、幸いである(Sr. マリア・デ・ジョルジ)
11月14日 義のために迫害される人々は、幸いである
(コデノッティ・クラウディオ神父)
12月12日 喜びなさい。大いに喜びなさい。(コデノッティ・クラウディオ神父)

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦
1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com
Tel:0968-85-3100
Fax:0968-85-3186



サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の 8 日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
名古屋 リピーターの会 A	11/2(土) 9:30～17:00	Fr. 植栗	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ) 暁子 Tel: 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
名古屋 リピーターの会 B	11/3(日) 9:30～17:00			
名古屋 フォローアップ	11/4(月・祝) 9:30～17:00			
入門 C	11/17(木) 9:30～17:00	同上	援助修道会 リヒト宣教室 (新宿区市ヶ谷田町)	来間(くるま) 裕美子※ Tel: 090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp
サダナ I	11/21(木)17:30～ 24(日)16:00	同上	カルメル修道会上野毛 修道院(世田谷区)	同上
広島 リピーターの会	2025 年 1/11(土)9:00～ 13 日(月・祝)16:00 ※通いも可能です	同上	西日本霊性センター (広島市麻安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク Tel: 082-239-0034
フォローアップ	1/19(日) 9:30～17:00	同上	シャルトル聖パウロ 修道女会九段修道院 (千代田区九段北)	来間(くるま) 裕美子※
名古屋 サダナ II *両方の週末に継 続参加が必要	1/25(土)9:30～ 26 日(日)18:00 2/1(土)9:30～ 2(日)18:00	同上	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ) 暁子

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax: 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。

●入門 C への参加…入門 A または入門 B を終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年は1月1日に、能登半島地震が起き、輪島市、珠洲市など、能登地方の人々は、家の倒壊、道路の地割れなど、甚大な被害を受けました。233名の方が亡くなられ、1175人が怪我をされ、1万5309人が今なお避難生活を余儀なくされています(1月23日現在)。一日も早く平穏な生活に戻れるよう、心からお祈りしたいと思います。

今年度の「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404 号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

時間: 11月14日(木) 13:30 から

W・ジョンストン著『愛と英知の道』の88頁8行目から

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里^{くのり} 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00~20:00)

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご活用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

